

ANNIVERSARY

株主のみなさまへ

第14期 中間決算のご報告

平成29年4月1日から平成29年9月30日まで



証券コード:6674



第14期第2四半期(累計) 連結業績サマリー

売上高

1,842億円

対前年同期比 15.9%増 ↗

国内の自動車電池事業において新車用需要が好調に推移したことに加え、前期決算の期中からパナソニック(株)の国内鉛蓄電池事業を連結対象に組み込んだことにより増加

営業利益

59億円

対前年同期比 16.6%減 ↘

主要材料である鉛価格の高騰に加え、のれん等償却の影響により減少

経常利益

64億円

対前年同期比 3.0%減 ↘

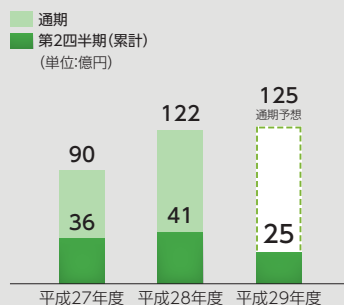
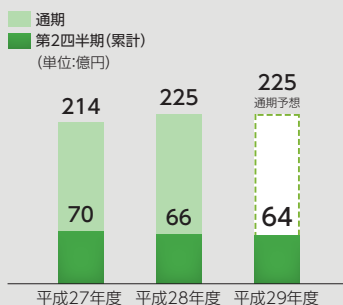
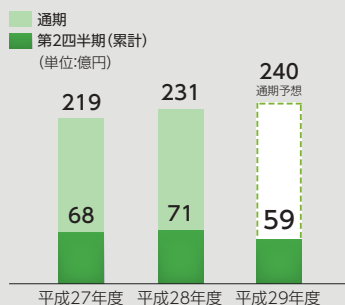
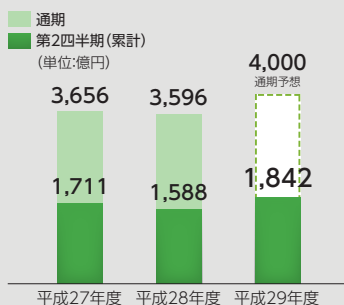
急激に円高が進行した昨年に比べ為替が安定的に推移し、為替差損益の改善が見られたものの、営業利益の減少に伴い減少

親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益

25億円

対前年同期比 38.0%減 ↘

海外関係会社の留保利益に対する繰延税金負債計上に伴い税金費用が増加したことにより減少



通期 連結業績予想

売上高

4,000億円

対前期比 11.2%増 ↗

営業利益

240億円

対前期比 3.9%増 ↗

経常利益

225億円

対前期比 — →

親会社株主に帰属する
当期純利益

125億円

対前期比 2.2%増 ↗

1株当たり当期純利益

30.28円

対前期比 2.2%増 ↗

- ▶自動車電池事業：海外事業を担う部門との一体化を進め、製品を軸にグローバル対応を推進し、お客様のニーズに沿った商品やサービスを迅速に提供できるよう取り組んでまいります。
- ▶産業電池電源事業：コスト構造の見直しや組織最適化による収益性の改善を進めるとともに、産業用リチウムイオン電池の新市場開拓など事業領域の拡大に取り組んでまいります。
- ▶車載用リチウムイオン電池事業：品質最優先の取り組みを継続しお客様の信頼を獲得するとともに、さらなる効率化を進め、黒字化を確実なものとし、安定的成長軌道へ乗せるべく取り組んでまいります。



取締役社長 村尾 修

企業理念

革新と成長

GSYUASAは、社員と企業の「革新と成長」を通じ、人と社会と地球環境に貢献します。

経営ビジョン

GSYUASAは、電池で培った先進のエネルギー技術で世界のお客様へ快適さと安心をお届けします。

経営方針

- GSYUASAは、お客様を第一に考え、お客様から最初に選ばれる会社になります。
- GSYUASAは、品質を重視し、環境と安全に配慮した製品とサービスを提供します。
- GSYUASAは、法令を遵守し、透明性の高い公正な経営を実現します。

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表(要旨)

	当第2四半期末 平成29年9月30日現在	前期末 平成29年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	175,140	173,159
固定資産	201,691	197,313
有形固定資産	121,365	124,278
無形固定資産	13,140	14,332
投資その他の資産	67,184	58,702
繰延資産	75	36
資産合計	376,907	370,508

(単位：百万円)

株主のみなさまへ

平素より格別のご高配、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ここに第14期第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)の業績や通期の取り組み等について、ご報告申し上げます。

当社グループは、おかげさまで持ちまして、設立から100周年を迎えることができました。これもひとえにステークホルダーの皆様からのご厚情に支えられ、品質を重視した絶え間ない努力により市場で信頼されるブランドを確立できたからこそであると確信しています。当社グループは今後も、二人の創業者の「高品質な製品開発により社会に貢献する発明家精神」、[時代に先駆けて新規事業を開拓するチャレンジ精神]をもって、先進の技術で社会に対して「安心・安全」をお届けしてまいります。

株主のみなさまには今後とも温かいご指導とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の業績について

当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は、国内の自動車電池事業において新車用需要が好調に推移したほか、今期決算においては、期初より、パナソニック(株)の国内鉛蓄電池事業を連結対象に組み込んだ影響等により、1,842億8百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて253億9百万円増加(15.9%)しました。

当第2四半期連結累計期間の利益は、上記のとおり国内の自動車電池事業が堅調に推移したものの、産業電池電源事業や海外の自動車電池事業において主要材料である鉛価格の高騰により利益が減少したほか、のれん等償却の影響により営業利益は59億86百万円(のれん等償却前営業利益は70億64百万円)と前第2四半期連結累計期間に比べて11億87百万円減少(△16.6%)しました。経常利益は、急激に円高が進行した前第2四半期連結累計期間に対し、当第2四半期連結累計期間は為替が安定的に推移し、為替差損益の改善が見られたものの、上記の営業利益の減少に伴って64億47百万円と前第2四半期連結累計期間に比べて2億2百万円減少(△3.0%)しました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、海外関係会社の留保利益に対する繰延税金負債計上に伴い税金費用が増加したことにより25億49百万円(のれん等償却前親会社株主に帰属する四半期純利益は37億17百万円)と前第2四半期連結累計期間に比べて15億61百万円減少(△38.0%)しました。

通期の見通しと取り組みについて

<自動車電池事業>

国内においては、欧州統一規格(EN)電池の新車向け販売および収益性の高いアイドリングストップ(ISS)車用鉛蓄電池の新車、補修向け販売拡大に取り組んでまいります。

海外においては、特に、自動車用鉛蓄電池において、アジアに加え、中近東、北アフリカ、欧州等での拡販を図ってまいります。これらの地域については、2015年に資本参加したトルコのInci社(※)にて、UAE、ウクライナ、エジプトの3カ所に販売事務所を順次開設し、販売促進を進めてまいります。

<産業電池電源事業>

コスト構造の見直しおよび組織の最適化等による収益性の改善を進めるとともに、国内外における電力貯蔵用蓄電システム等の市場である鉄道、建機、通信、住宅向けに、最適な産業用リチウム関連商品を開発し、市場開拓、市場投入を進めてまいります。

<車載用リチウムイオン電池事業>

品質最優先の取り組みを継続し、コスト低減と性能向上に取り組み、さらなる収益改善を進めてまいります。また、各事業部と連携し、グローバル目線で車載・産業市場における製品、販売戦略の検討を進め、市場環境の変化に対応してまいります。

(※) 正式名称：Inci GS Yuasa Akü Sanayi ve Ticaret Anonim Şirketi

株主さまへの還元について

中間配当金につきましては、第4次中期経営計画において株主さまに対する利益還元を経営の最重要政策の一つとした考えのもと、通期業績動向や財務状況を踏まえたうえで、予定通り1株当たり3円といたしました。期末配当金につきましても、従前の予想通り7円を予定しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

	当第2四半期(累計) 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前年同期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	4,415	8,108
投資活動による キャッシュ・フロー	△14,111	△21,077
財務活動による キャッシュ・フロー	8,021	8,983
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△172	△2,036
現金及び現金同等物 の増減額(△は減少)	△1,847	△6,021
現金及び現金 同等物の期首残高	24,673	27,788
現金及び現金 同等物の四半期末残高	22,826	21,766

(単位：百万円)

PICK UP 1 CSR方針・行動規範の策定

2017年5月に「CSR方針・行動規範」を策定いたしました。当社グループは社会および事業の持続的発展を図るために、CSR活動が事業活動そのものであることを全従業員が認識し、「CSR方針・行動規範」に基づいた行動に全員参加で取り組むことを推進していきます。

GS YUASA CSR方針

GS YUASAは、法令遵守にとどまらず、社会的責任に関わる国際的行動規範を尊重し、蓄エネルギー技術等により事業活動の持続的発展に取り組むとともに、人と社会と地球環境に貢献します。

1 公正、透明かつ健全な事業活動の推進と腐敗の防止

GS YUASAは、お客様、お取引先様、株主、地域社会の皆様の信頼の獲得を第一に考え、かつ各国、各地域の関係法令、ルールを遵守し、透明な事業活動を行います。また、あらゆる形態の腐敗防止に取り組み、違法な政治献金、公務員に対する贈賄は行わず、反社会的勢力である個人および団体とは一切の関係を持ちません。

2 人権の尊重

GS YUASAは、強制労働、児童労働の排除はもとより、すべての人の人権および労働者としての基本的権利を尊重します。また、あらゆる差別を禁止し、多様性を尊重します。

3 適正な労働環境の維持、向上

GS YUASAは、従業員にとって安全で働きやすい労働環境を提供し、適切なマネジメントにより中長期的に人材育成を進めます。

4 安全、安心な製品、サービスを提供する責任の遂行

GS YUASAは、ものづくりを通じて、製品およびサービスがその役割を終えるまで安全と品質を確保します。また、製品およびサービスに関する安全情報を誠実に提供します。

5 地球環境の保全

GS YUASAは、汚染の予防、気候変動への対応、持続可能な資源の利用を含む循環型社会の形成に取り組みます。

6 地域社会との共生

GS YUASAは、地域社会と連携し共生することにより、地域の健全かつ持続的な発展に寄与します。

7 サプライチェーンにおける社会的責任活動の推進

GS YUASAは、サプライチェーン全体にわたって、社会的責任を果たす企業活動を推進します。

第14期 上半期のニュース (2017/4/1~2017/9/30)

05/11

リリース



東京都交通局様向け 産業用リチウムイオン電池搭載電源装置26セットを受注
～ 東京都交通局様の鉄道通信機器用電源装置にリチウムイオン電池が初採用 ～



無停電電源装置 (駅用)
リチウムイオン電池モジュール



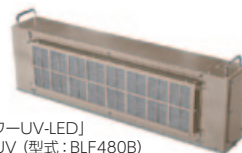
直流電源装置 (庁舎用)
リチウムイオン電池モジュール
(イメージ)

05/31

リリース



印刷用UV照射装置
空冷式「ハイパワーUV-LED」LEGA:UVを
リニューアル発売!



「ハイパワーUV-LED」
LEGA:UV (型式:BLF480B)

05/31

リリース



自動車エンジンスタート補助用電源「PT1000L」を新発売
～ 高品質リチウムイオン電池内蔵、ロードサービスに最適 ～



エンジンスタート補助用電源
「PT1000L」



自動車用リチウムイオン電池
「LEV21F」

05/31

リリース



釧路町トリトウシ原野太陽光発電所に
蓄電池容量6,750kWhのリチウムイオン電池システムを納入
～ 太陽光発電の出力変動緩和に貢献 ～

05/31

リリース



CSR方針および行動規範を制定

06/05

リリース



GSユアサの宇宙用リチウムイオン電池が
「みちびき2号機」(準天頂衛星)に搭載



「みちびき2号機」

出典：準天頂衛星システムウェブサイト
(<http://qzss.go.jp/overview/download/cg-image24.html>)



「みちびき2号機」
搭載リチウムイオン電池
「LMG100」
(三菱電機認定品)

PICK UP

2

太陽光発電の安定供給に貢献

北海道にある釧路町トリトウシ原野太陽光発電所では、GSユアサ製のリチウムイオン電池を利用した太陽光発電システムを2017年4月より運用しています。

太陽光発電は、自然条件(日照時間、気温など)の変化によって発電電力に急激な変動が生じることがあり、大量に太陽光発電の電力を電力系統へ接続した場合には、系統電力の品質(電圧、周波数)を低下させる可能性があります。そのため、北海道において太陽光発電所を電力系統に接続する際には、蓄電池を用いて発電電力の変動を平準化する必要があります。当社グループのリチウムイオン電池は、発電電力の変動を緩和するためのキーデバイスとして太陽光発電システムに採用されています。



釧路町トリトウシ原野
太陽光発電所全景



リチウムイオン電池
コンテナ外観

PICK UP

3

GSユアサ、トルコ合併会社へ増資完了

～ 生産能力増強とトルコおよび周辺国への拡販戦略推進 ～

トルコ共和国にある持分法適用関連会社のInci GS Yuasa Aku Sanayi ve Ticaret Anonim Sirketi (以下、IGYA社) に対して、現地パートナーであるInci Holding Anonim Sirketiと共に、1億トルコリラ (約30億円) の増資を2017年4月28日に行いました。なお、この増資による出資比率の変更はありません。

今回の増資の主な目的は、新工場の建設 (2018年末頃稼働予定) です。新工場では、今後、急激な需要の増加が見込まれる環境対応車(アイドリングストップ車) に適した当社最新技術を導入した電池を生産します。また、5年後を目標に、自動車用鉛蓄電池の生産能力を年間600万個体制 (現在は400万個体制) に増強します。

当社は、2015年10月の資本参加以降、IGYA社において当社の技術を投入した自動車用鉛蓄電池の製品化に順次取り組んでおり、2016年にはGSユアサブブランド製品の生産を開始いたしました。また、トルコ周辺国への自動車用鉛蓄電池の販売力を強化するため、UAE (ドバイ)、ウクライナ (キエフ)、エジプト (カイロ) に駐在員事務所を順次開設します。これらの活動を通じ、当社グループとして未開拓地域の中近東・アフリカ・CIS*・欧州地域へのさらなる拡販戦略を促進してまいります。

また、IGYA社のフォークリフト用鉛蓄電池事業は、2012年の事業参入以降、2016年末までにトルコ国内および輸出向けに累計約66万セル (2.7万台相当) を販売しており、国内シェアは約40%でNo.1 (注: 当社調べ) を維持しております。IGYA社では、トルコ国内でのさらなるプレゼンス拡大と顧客満足度向上のため、イスタンブール市内にサービスセンターを開所 (2017年5月) し、お客様との信頼関係を一層強化していきます。

*独立国家共同体 (Commonwealth of Independent States) の略称。

ソビエト連邦消滅時に連邦を構成していた諸共和国によって構成されたゆるやかな国家連合体。



IGYA社 (外観)

06/08
リリース



Business

GSユアサ、トルコ合併会社 (IGYA社) へ増資完了

～ 生産能力増強とトルコおよび周辺国への拡販戦略推進 ～

07/04
リリース



Products

LED高天井照明器具

「特殊環境対応モデル」を新発売!

08/01
リリース



Products

LEDランプ「LEGA LDT100/200V90N-G」を新発売!

08/10
リリース



Business

【関西】スマートエネルギーWeek 2017に出展

09/29
リリース



Business

AI(人工知能)を用いた蓄電池システムの 状態監視に関する実証実験を開始

10/19
リリース



Products

ブルーエナジー製リチウムイオン電池が Honda「STEP WGN SPADA」(9/29発売) に搭載

～ ハイブリッドシステム「SPORT HYBRID i-MMD」に採用 ～



IGYA社で生産している
自動車用鉛蓄電池



LEDランプ
「LEGA LDT100/200V90N-G」

LED高天井照明器具
「特殊環境対応モデル」
(JDB3442A)



LED高天井照明器具
「特殊環境対応モデル」
(JD3753A)



EHWS5セルとモジュール



STEP WGN SPADA

自動車電池事業

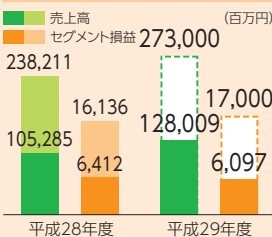
売上高…………… 1,280億9百万円
(前年同期比+21.6%)

(国内)新車メーカーの旺盛な需要やパナソニック(株)の国内鉛蓄電池事業譲受により増加
(海外)アセアンや欧州での販売が増加

セグメント損益…………… 60億97百万円
(前年同期比△4.9%)

主要材料である鉛価格の高騰に加え、のれん等償却の影響により減少

売上高およびセグメント損益
(第2四半期(累計)および通期)



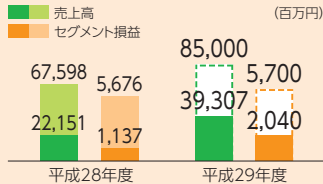
国内

売上高…………… 393億7百万円(前年同期比+77.4%)
セグメント損益…………… 20億40百万円(前年同期比+79.4%)



自動車エンジン始動用鉛バッテリー「ECO.R Revolution」

売上高およびセグメント損益
(第2四半期(累計)および通期)



主要製品

自動車用・二輪車用鉛蓄電池/
自動車関連機器

第14期(平成29年度)の重点課題

- ▶ 最適生産体制の整備とコスト削減を進め、収益の最大化を図る
- ▶ 生販技一体で収益力強化、グローバル市場対応を推進

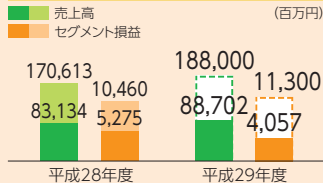
海外

売上高…………… 887億2百万円(前年同期比+6.7%)
セグメント損益…………… 40億57百万円(前年同期比△4.9%)



四輪補修用SMF電池「YUASA」ブランド製品(トルコのInci GS Yuasa Akü Sanayi ve Anonim Şirketi社製)
*SMF(Sealed Maintenance Free)=補水不可二重蓋電池

売上高およびセグメント損益
(第2四半期(累計)および通期)



主要製品

自動車用・二輪車用鉛蓄電池/
据置用・電動車用鉛蓄電池/
小型鉛蓄電池/
その他各種用途電池

第14期(平成29年度)の重点課題

- ▶ 高付加価値商品の需要拡大に対応
- ▶ 未開拓地域への拡販戦略を推進

車載用リチウムイオン電池事業

売上高…………… 196億6百万円(前年同期比+5.8%)

プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売が伸び悩んだものの、ハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売が増加

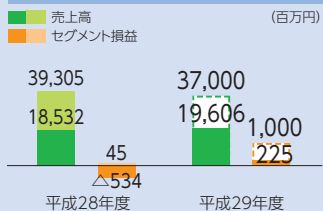
セグメント損益…………… 2億25百万円(前年同期に比べ7億59百万円増加)

開発費用等が増加したものの、リチウムイオン電池の販売増加に伴い増加



リチウムイオン電池(電気自動車用(株)リチウムエナジー ジャパン製)およびハイブリッド車用(株)ブルーエナジー製)

売上高およびセグメント損益
(第2四半期(累計)および通期)



第14期(平成29年度)の重点課題

- ▶ 品質最優先の取り組み、コスト低減と性能向上により黒字化を盤石なものとする

主要製品

車載用リチウムイオン電池

産業電池電源事業

売上高…………… 295億7百万円(前年同期比△4.3%)

小型電源装置や産業用リチウムイオン電池の販売が減少

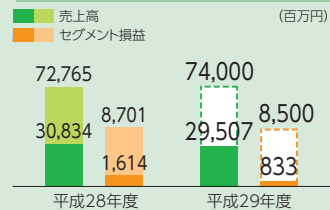
セグメント損益…………… 8億33百万円(前年同期比△48.4%)

販売が減少したことに加え、主要材料である鉛価格の高騰により減少



蓄電池充電専用パワーコンディショナ「ラインバック オメガES」

売上高およびセグメント損益
(第2四半期(累計)および通期)

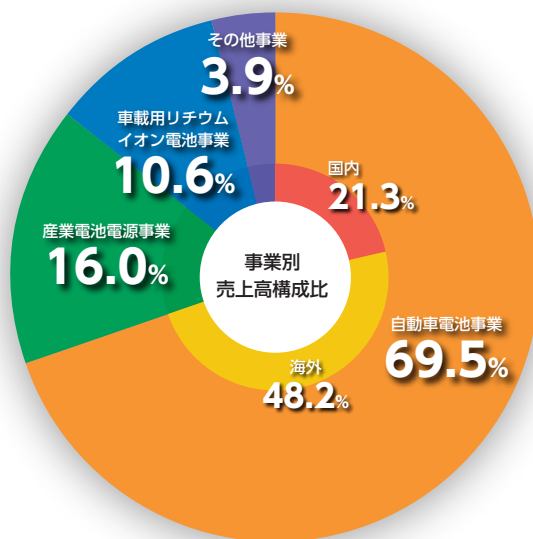


主要製品

据置用・車両用・電動車用・その他各種用途鉛蓄電池/
小型鉛蓄電池/
アルカリ蓄電池/
産業用リチウムイオン電池/
整流器/
汎用電源/
電池関連機器/
各種照明機器/
紫外線応用機器/
その他各種電源装置

第14期(平成29年度)の重点課題

- ▶ 抜本的な販売戦略やモノづくりの革新による新商品戦略の推進
- ▶ リチウム関連商品の開発・市場投入を加速し、グローバル目線での市場開拓を推進



その他事業

売上高…………… 70億84百万円(前年同期比+66.8%)

特殊用途電池の販売増加や潜水艦搭載リチウムイオン電池の生産開始に伴い増加

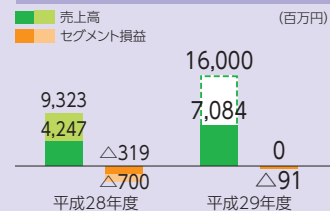
セグメント損益…………… △91百万円(前年同期に比べ2億28百万円増加)
(全社費用等調整後)

生産開始に伴う初期費用の増加があったものの、昨年は、パナソニック(株)の国内鉛蓄電池事業譲受に伴う費用が発生していたことにより改善



衛星用大型リチウムイオン電池

売上高およびセグメント損益
(第2四半期(累計)および通期)



主要製品

大型リチウムイオン電池/
特殊電池/
その他各種用途電池

第14期(平成29年度)の重点課題

- ▶ 潜水艦搭載リチウムイオン電池で品質レベルの高い生産体制構築

(注1)各事業別のグラフは、緑は通期、赤は第2四半期(累計)を表します。

(注2)その他事業に含まれるセグメント利益の調整額は△11億37百万円であり、セグメント間取引消去△6億1百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用△5億35百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

会社の概要 (平成29年9月30日現在)

商号	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション GS Yuasa Corporation
事業目的	傘下のグループ企業全体の経営戦略を策定、 統括し、グループの企業価値の最大化を図る。
設立	平成16年4月1日
資本金	33,021百万円
本社所在地	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地 電話 (075)312-1211
ホームページアドレス	http://www.gs-yuasa.com/jp
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第1部

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会および期末配当:毎年3月31日 中間配当:毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
特別口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) [受付時間 9:00~17:00(土・日・祝祭日を除く)]
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ(http://www.gs-yuasa.com/jp/ir/)に掲載いたします。ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

役員 (平成29年9月30日現在)

(株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション (純粋持株会社))

取締役社長 (代表取締役)	村尾 修	取締役	大谷 郁夫
取締役 (代表取締役)	西田 啓	監査役	落合 伸二
取締役	中川 敏幸	監査役	大原 克哉
取締役	坊本 亨	監査役	山田 秀明
取締役	倉垣 雅英	監査役	藤井 司
取締役	大西 寛文		

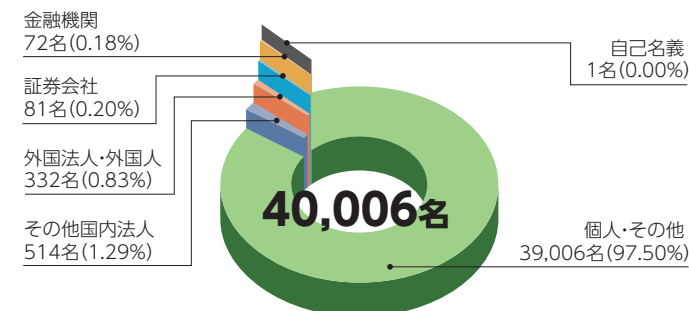
(注) 取締役のうち、大西寛文氏および大谷郁夫氏は社外取締役です。また、監査役のうち、落合伸二、大原克哉、藤井司の各氏は社外監査役です。

(株式会社 GSユアサ (事業子会社))

取締役社長 (代表取締役)	村尾 修	取締役	村上 真之
専務取締役 (代表取締役)	西田 啓	取締役	吉田 浩明
常務取締役	中川 敏幸	取締役	山口 義彰
常務取締役	坊本 亨	監査役	落合 伸二
常務取締役	倉垣 雅英	監査役	大原 克哉
取締役	沢田 勝	監査役	山田 秀明
取締役	奥山 良一		

株式の状況 (平成29年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,400,000,000株
発行済株式総数	413,574,714株
株主数	40,006名



大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (株)	出資比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行 (株) (信託口)	36,018,000	8.72
日本トラスティ・サービス信託銀行 (株) (信託口)	27,893,000	6.75
明治安田生命保険 (相)	14,000,000	3.39
トヨタ自動車 (株)	11,180,400	2.71
(株) 三菱東京UFJ銀行	9,327,335	2.26
日本生命保険 (相)	8,945,669	2.17
(株) 京都銀行	7,740,348	1.87
三井住友信託銀行 (株)	7,354,000	1.78
(株) 三井住友銀行	7,108,517	1.72
日本トラスティ・サービス信託銀行 (株) (信託口5)	6,788,000	1.64

(注) 出資比率は、発行済株式総数から自己株式数を減じた株式数(412,962,591株)を基準に算出しております。

株主インフォメーション

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主さまの口座のある証券会社等にお申出下さい。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出下さい。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出下さい。

「配当金計算書」について

※ 確定申告をなされる株主さまは、大切に保管下さい。
配当金お支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行なう際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行なわれます。確定申告を行なう際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当金お支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただきます。

(注) 1 本報告書に記載の金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入しております。
(注) 2 本報告書に含まれている将来予測等は作成日現在において入手可能な情報に基づくものであり、今後様々な要因によって予測等と異なる結果となる可能性があります。